

# 専攻科福祉専攻

## カリキュラム・ポリシー <CP>（教育課程編成・実施の方針）

---

専門性の高い介護福祉士を養成するために、指定規則にある「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の4領域を学習する。まず「人間と社会」では専門職としての基礎教養を修得するため選択科目をおいている。介護実践の根拠となる人の「こころとからだのしくみ」を学び、介護実践の基礎を理解する。これらの基礎分野の理解に基づいて、「介護」領域の介護の基本について学び、生活支援技術や医療的ケアの演習を通して専門的技術を体得していくものとする。生活支援技術については、介護過程を通して個々の生活支援技術を統合して学ぶ「総合的生活支援Ⅰ・Ⅱ」を設けており、あらゆる介護場面に共通する知識・技術を活用して、利用者の潜在能力を引き出し、発揮できる力を培えるように配慮している。

介護福祉学科との合同授業を行えるものは行うことにより、高校を卒業し介護福祉学科へ入学してきている学生たちに、授業態度や考え方等に良い刺激を与えられるようにしている。

### 「5つの到達目標」に関連する科目構成と達成するための工夫

- 1) 介護福祉士の仕事は人間を対象とする。保育士養成教育の経験から、さらに高齢者や障がい者との関わりを通して人の尊厳を守ることができるようにしている。
- 2) 少人数の授業であるため、疑問点がある場で解決したり意見交換ができるため、応用能力が得られるように授業内容を工夫している。
- 3) 地域に開かれ、地域に密着した教育をしていくために、学生が地域から学び、地域での活動の輪を広げて実践できるように地域交流を積極的にとり入れている。
- 4) 介護実践能力を高めるとともに、研究的な能力を育成するために、介護現場で学んできたことを振り返り、まとめていくことを大切にしている。介護実習終了後には、実習のまとめを行うとともに、介護総合実習終了後に事例研究にとり組み、その成果を介護福祉学科と合同で研究発表会を行っている。